

市川房枝女性の政治参画基金 助成対象者リスト

第1回（1983年）～第41回（2023年）

*基金の名称は第1～28回は「市川房枝基金」、第29回以降は「市川房枝女性の政治参画基金」と改称。

第1回・1983年

沖縄婦人運動史研究会(代表 宮里悦)／沖縄県／50万円
『戦後沖縄婦人運動史の記録』を調査・出版する。

Kathleen S. Molony／米国／50万円

市川房枝の戦後の運動研究と、『評伝・市川房枝』（仮題、英語、スタンフォード大学出版部）を出版する。

第2回・1984年

(財)日本キリスト教婦人矯風会(代表 篠原喜美)／東京都／50万円
アジア女性のための、かけこみセンターを設立する。

婦人福祉研究会(代表 五味百合子)／東京都／50万円

「今日の売買春と婦人保護」の研究と報告書を作成する。

第3回・1985年

日本婦人有権者同盟(代表 紀平梯子)／東京都／100万円

創立40周年記念事業として、婦人の政治教育啓蒙活動を展開する。

第4回・1986年

アジアの女たちの会(代表 五島昌子)／東京都／50万円

女性の視点によるアジアの開発援助の調査・出版を行う。

アムネスティ・インターナショナル日本支部(代表 イーデス・ハンソン)／東京都／50万円

人権を守る国際救援活動―「良心の囚人」展を開催する。

第5回・1987年

国際女性の地位協会(代表 伊東すみ子)／埼玉県／50万円

女子差別撤廃条約の研究、普及、ならびに国際的・国内的実施状況のモニターと、国連などの動きを国内に情報提供して、女性の地位向上をはかる。

女たちの映画祭実行委員会／東京都／50万円

ポーランドの女性監督（ワンダ・ヤクボフスカ）によるアウシュビッツをテーマにした映画（「アウシュビッツの女囚」「招待」）の上映権を買い取って上映運動を行う。

第6回・1988年

東京YWCA「留学生の母親」運動委員会(代表 中谷宏子)／東京都／50万円

委員会発足25周年の記念誌『留学生と私達の歩み』発行など、在日留学生の問題を広く知らせる活動を行う。

東京・強姦救援センター／東京都／50万円

設立5周年記念連続講座「性的自由・自立に向けて」（仮称）を開催、その内容を小冊子にまとめ、センターの存在をアピールする。

第7回・1989年 該当者なし

第8回・1990年

野村かつ子(海外市民活動情報センター代表)／山梨県／50万円

地球環境の危機が深刻化している今日、利潤追求の巨大企業と物的豊かさを追求する国民の責任を問うアメリカの“新しい波”の運動を調査し、過去の調査成果を含め同国の市民運動に流れる基本理念を集大成する。

メディアの中の性差別を考える会（代表 斉藤正美）／富山県／50万円

「マスメディアに描かれる女性像―富山を例にとって」をテーマに、女性蔑視、性別役割分業、性的対象としての強調など、性差別を批判する視点で地方紙（北日本新聞）の記事内容を検証し、その報告書を作成する。

第9回・1991年

女性労働問題研究会(代表 嶋津千利世)／東京都／30万円

均等法施行5年を機に国際的視野から日本の職場の男女差別の現状を調査。政府が国連女子差別撤廃委員会に第2次レポートを提出するのに対応して、これを民間のレポートとして提出し、審議に反映させる。

第2回アジア女性会議実行委員会(代表 船橋邦子)／千葉県／30万円

「創り出そう女たちのアジアを」をテーマに1992年4月、日本で第2回アジア女性会議を開催。アジア各地のネットワークの代表が集まり、女性が抱える問題の情報交換などを行う。

あごら(事務局責任者 斎藤千代)／東京都／30万円

国連女性の10年の間の新聞切り抜きを集大成して『新聞切り抜きに見る女の15年』を続刊、次世代に女性情報を伝える。

第10回・1992年**「夫からの暴力」調査研究会(代表 角田由紀子)／東京都／100万円**

夫から妻への暴力の被害実態に関する全国規模のアンケート調査を実施、集計、分析し、その結果を社会的対応体制（法律・行政・民間の活動）整備へ向けての基礎資料とする。

第11回・1993年 該当者なし

第12回・1994年**受水走水 (ウキンジュハイinjyu)の家(代表 もろさわようこ)／沖縄県／30万円**

「歴史を拓くはじめの家」の沖縄分室として、女たちが霊性ふくよかだった文化的エトスが濃く残る沖縄に、「私達が沖縄と関わるこの意味を問い、考える場、更には世界の先住民族との交流の場」である「受水走水の家」を建設する。

絵本を通して平和を考える会 (SHANTI)(代表 湯浅佳子)／神奈川県／30万円

『さだ子と千羽づる』(1994年夏SHANTI出版)の朝鮮語・英語・モンゴル語版の出版と、戦後50周年をテーマにしたフェリス女学院大学の学園祭での講演会(1994年秋)や国際シンポジウム(1995年夏)等の活動を通して、学生の立場で平和を訴えていく。

東アジア女性フォーラム実行委員会(代表 中村道子)／東京都／30万円

1995年の第4回国連世界女性会議に向けて、東アジア7カ国・地域のNGOの女性たちによる第1回東アジア女性フォーラムを1994年10月、日本で開催する。

第13回・1995年**声なき声の会(代表 小林トミ)／千葉県／50万円**

60年安保反対で結成した「誰デモ入れる声なき声の会」が35年間発行してきた『声なき声のたより』を、次世代に草の根運動を継承するために復刻する。

マイペンライ友の会(代表 島敬子)／千葉県／50万円

1993年日本ユネスコ協会連盟派遣で高校生らが訪れたタイのカンチャナプリー戦争博物館ほかに、日本語の解説パネルを設置して平和の尊さを訴える。

第14回・1996年**ジュノーの会(代表 甲斐等)／広島県／100万円**

チェルノブイリ原発事故から10年。放射能汚染禍にある女性と子どもの生命に関わる研究に取り組んでいる、ウクライナの女医タマラ＝ザダロージュナヤ教授を招いて、広島大及び埼玉医大における研修機会を提供する。

第15回・1997年**ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク(WWN)(代表 本多淳亮)／大阪府／60万円**

1997年秋に住友男女賃金差別事件原告らとILO本部等を訪ねて日本の女性労働の実態を訴えてきたWWNは、1998年夏にドイツの女子差別撤廃委員会委員ハンナ・シヨブ＝シリングらを招き、欧州女性の働く実情とEUの立法についてシンポジウムを開催する。

第16回・1998年**JFC(ジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレン)を支えるネットワーク(代表 松井やより)／東京都／50万円**

1980年以降にエンターテイナーとして来日したフィリピン人女性と日本人男性の間に生まれながら、日本人父親の消息不明で養育が遺棄されている子どもたちの父親探しをおこない、法的権利実現をはかる。

一冊の会(代表 大槻明子)／東京都／50万円

世界人権宣言50周年を記念して、1946年4月に参政権を初行使した女性たちを対象に、参政権の意義についての認識や政治への関心度などをアンケート調査し、その結果及び証言を冊子にまとめる。

第17回・1999年**日本キリスト教女子青年会(代表 江尻美穂子)／東京都／30万円**

「平和のとりでを築こう」と1962年以来、毎年憲法研究会を続け、第36回集会は2000年3月に沖縄で開催する。テーマは「平和な世の中をみんなで一緒につくっていこう」。今回はアジアを中心に海外にも参加を呼びかけ、共通の課題を話し合う。

第18回・2000年**アジア農村オルタナティブス(ARA)・ジャパン(代表 加地永都子)／東京都／20万円**

グローバル化が進む中で開かれた「2000年アジア農村女性及び男性寄り合い」(2000年10月、タイ)では、農業の担い手である女性の視点を農業に生かすことの重要性等が話し合われ、その成果を日本語版報告書にまとめて国内キャンペーンを行う。

国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会(代表 中村紀伊ほか)／東京都／30万円

「平等・開発・平和」を目指し、民間女性が思想信条を越えて連帯してきた活動の記録『連帯と行動 パートII』を2001年春に刊行する。これは4半世紀に及び活動の到達点を明らかにし、21世紀を担う若い世代に活動を引き継ぐものである。

第19回・2001年

NPO法人WE21ジャパン（代表 郡司真弓）／神奈川県／35万円

アジア女性の自立支援活動に役立てるために、ジェンダーと開発に関する『ジェンダー・ワークス』（1999年、オックスフォード英国刊）を日本語に翻訳、2002年春に冊子を出版する（監修・星野昌子）。

第20回・2002年

全国婦人相談員連絡協議会（代表 原田恵理子）／東京都／15万円

2001年に実施した婦人相談員の「DV全国研修」の効果を測定するために、3度のアンケート調査を行った。これを今後の研修企画などの参考資料にするとともに、2次被害防止に役立てる。2003年春には調査結果を報告書にまとめる。

売買春問題ととりくむ会（代表 紀平梯子、西宮幸治）／東京都／15万円

施行45年を迎えた売春防止法を抜本的に改め、「女性の人権確立法」（仮称）とするための啓発活動を進める。2003年春にシンポジウムを開くほか、同法案要綱をつくり、具体的な事例も含めた冊子を発行、配布する。

野口敬子（同志社大学人文科学研究所嘱託研究員）／兵庫県／20万円

2008年にブラジルへの日本人移住は100年を迎えるが、重要な働き手である女性が研究対象になることはなかった。愛媛県から移住した渡部キワを中心に移民女性たちに焦点を当て、「妻たちのブラジル日本人移民史」の記録をまとめる。

第21回・2003年

日本女性放送者懇談会（2003年度会長 遠田恵子）／東京都／30万円

創立35周年の2004年、「放送ウーマン調査2004」を実施する。放送界で働く男女の雇用の実態を明らかにし、女性の地位向上と働く環境の改善につなげる方策を探る。

第22回・2004年

希望の学校（代表 駿溪〈スルタニ〉トロペカイ）／茨城県／30万円

2005年夏、アフガニスタンの成人女性の経済的自立を援助する「希望の学校」（カブール）のナジブ・ハミディ校長を日本に招いて講演会を開催し、報告書を作成する。

第23回・2005年

NPO法人平塚らいてうの会（代表 米田佐代子）／東京都／20万円

2006年5月、平塚らいてう生誕120年を記念し、遺族から寄贈された長野県真田町の土地に平塚らいてうの遺品、資料を保存・展示する「らいてうの家」を建設、オープンする。

第24回・2006年 該当者なし

第25回・2007年

国連NGO国内婦人委員会（委員長 江尻美穂子）／東京都／10万円

創立50周年を記念して冊子『国連・女性・NGO PART II』を発行する。

第26回・2008年

国際ジェンダー学会（会長 国広陽子）／東京都／10万円

創立30周年記念国際シンポジウム「1970年代後半以降の女性運動と女性学／ジェンダー研究」の報告書（日・英）を作成する。

第27回・2009年

第11回全国女性史研究交流のつどいin東京実行委員会（委員長 折井美耶子）／10万円

1977年に愛知で第1回つどい開催。2010年9月、第11回は「新たな女性史の未来をどう切り拓くか」をテーマに東京で開催する。

第28回・2010年

女性「九条の会」（呼びかけ人 瀬戸内寂聴・羽田澄子他）／東京都／10万円

2011年5月、若い女性に、平和憲法9条の意義を広めるパンフレットを作成する。

第29回・2011年 該当者なし

第30回・2012年

特定非営利活動法人UN Women（国連女性機関）日本国内委員会（理事長 有馬真喜子）／30万円

UN Women作成のDVDの中から、「女性に対する暴力」「女性と平和・安全保障」「ジェンダー予算」に関する3作品を、日本語字幕をつけてDVD化し、広報・啓発資料として配布する。

第31回・2013年

田中寿美子さんの足跡をたどる研究会（代表 井上輝子）／神奈川県／10万円

戦後日本を代表するフェミニスト政治家で、社会評論家であった田中寿美子（1909-1995）の関連資料を収集し、冊子を刊行する。

第32回・2014年

NPO法人mネット・民法改正情報ネットワーク（代表 坂本洋子）／東京都／10万円
選択的夫婦別姓実現のため、国会ロビーイングや市民向けのリーフレットを作成する。

第33回・2015年

岩尾光代（歴史ジャーナリスト）／東京都／10万円

著書『新しき明日の来るを信ず はじめての女性代議士たち』（1999年、NHK出版）を取材時の写真音声資料をもとに、DVD「最初の女性代議士たち」を作成する。

第34回・2016年

井上直子（一ツ橋大学大学院博士後期課程）／東京都／10万円

博士論文（戦前・戦中日本において女性団体や行政が女性参政権の問題がどう問うてきたかを検討し、現在も続く女性の政治参加をめぐる困難性や矛盾を歴史的に問う）執筆のための史資料調査を行う。

第35回・2017年

パリテ・キャンペーン実行委員会（代表 三浦まり）／東京都／10万円

「政治分野における男女共同参画推進法」を成立させるため、法制化の必要性を訴え世論喚起をするウェブサイトを開設する。SNSを通じて若い女性にパリテの重要性を伝え、女性の政治参画に関わる運動を可視化する。

第36回・2018年

出産議員ネットワーク（代表 永野裕子）／東京都／10万円

女性議員が出産・子育てをしながら議会・議員活動を行う上での課題整理と先行事例紹介等により女性の政治参画や議員活動の障壁となる要因解消の提言を行うため「地方議員の妊娠・出産に関する全国実態調査」を行う。

第37回・2019年 該当者なし

第38回・2020年

こども未来ラボ（代表 須田直菜）／山梨県／15万円

山梨県峡東地域（笛吹市・甲州市・山梨市）で2020年10月～21年11月実施の各種地方選を通して「選挙がもっと楽しく身近になる1年」にするため、地域密着で子育て世代に共感してもらえる「政治参画」を伝える。

第39回・2021年

みらい子育て全国ネットワーク（代表 天野妙）／東京都／15万円

2022参院選に際し、子育て世代にどのような政策に関心があるかについてのアンケート調査を行い、その結果を直接候補者に届ける活動（#GOTO候補者）を伝えるコンテンツ（マンガ、グラフ、Webサイト）を作成する。

特定非営利活動法人mia forza 〈ミア・フォルツァ〉（代表 門間尚子）／宮城県／35万円

NPOはじめ、社会課題に取り組む団体におけるハラスメントの予防や、事案発生時の相談対応を可能にする体制づくりを目指して現状把握の調査を行い、報告会を開催する。

第40回・2022年

選択的夫婦別姓・全国陳情アクション（事務局長・井田奈穂氏）／東京都／35万円

選択的夫婦別姓制度の実現に向け、全国各地の議会から国会や関係機関に当事者の声を届ける活動をしている。その結果、348箇所の都道府県や市町村で意見書が可決される成果がでていたが、膠着状態が続く国会での議論を進めるために、更に多くの意見書可決の促進を目指し、各地での勉強会や院内集会などを開催する。

ジェンクロス・カワサキ（代表・岡田恵利子氏）／神奈川県／15万円

2023年春の統一地方選挙に向け、川崎市においてコンソーシアム型投票ムーブメントを実施、地域で選挙や政治がより身近な話題になる施策（ステッカー、ポスター配布、選挙割参加店の協力、SNSコンテンツ制作）を実施する。

第41回・2023年

認定NPO法人 開発教育協会（代表理事・湯本浩之）／35万円

教育現場で影響力を持つ教師等が、自らのジェンダーバイアスに気づき、ジェンダー平等が目指せるよう、教育関係者や研修・講座実施企業等の指導者向け教材の作成・発行を行う。

別姓訴訟を支える会（代表・福沢恵子氏）／15万円

2024年2月頃に第3次別姓訴訟を提訴予定。提訴前から、裁判情報の発信など特に動画配信を通して、これまでアプローチできなかった若い世代を巻き込み、第3次別姓訴訟で違憲判決を得られるように活動を進める。